

# 北上川下流大規模氾濫時の減災対策協議会

## 議事概要

- 日時：平成28年 8月23日（火） 14時30分～16時00分
- 場所：石巻市 こもればの降る丘 遊楽館 会議室
- 委員出席：4市町のうち、首長は1市町出席
- 報道機関：宮城テレビ、石巻かほく、石巻日日新聞、大崎タイムス

### 1. 協議会の進め方

- (1) 北上川下流大規模氾濫時の減災対策協議会規約（案）について
- (2) 幹事会の報告について
  - ⇒ 異議なし
- (3) 「北上川下流域の減災に係る取組方針（案）」について
  - ⇒ 説明後、それぞれの自治体等の過去の災害対応、防災の取り組みやポイントを、各委員から発言してもらう

### 2. 各委員からの発言（抜粋）

#### ○委員

- ・（協議会前日に台風9号が接近していたことから）今回の体制は、今年の9. 11から1年が経過し、それぞれの反省を踏まえた中での体制となった。
- ・出張中ではあったが、全行程をキャンセルして帰庁した。14：00に防災無線で準備情報、16：00に警戒本部を立ち上げた。そのうえで消防団は自宅待機の指令を出した。夜間になり風や雨が強くなったが、0：00まで警戒本部を設置し情報収集を行っていた。
- ・昨年にあわや越水、破堤の恐れがあった江合川は、堤防工事中であるので、早めに指示を出しながら増水状況・降雨状況を把握し、大変気を遣って対応した。早めに取り組んだつもりであったが、昨年のもあったので、住民に被害が及ばないように配慮した。
- ・涌谷町には県管理の河川もあるので、そちらの出水状況も見ながら、注意深く対応をして行きたい。

### ○委員

- ・（協議会前日に台風9号が接近していたが）台風が深夜に及ぶことが明らかだったので、明るいうちに避難準備情報を出して体制をとった。早めの対処が非常に大事と考えている。今回は水害等がなく良かったと感じている。
- ・今後もソフト対策を意識して、対策していきたい。
- ・今後予定している防災センターを拠点にしっかり対策等をとっていく。

### ○委員

- ・関東・東北豪雨での反省をふまえて、タイムラインを作成し、4月に区長会議を開催した。自主防災組織の代表者説明を予定していたが一部延期となっている。（台風9号のため）
- ・（協議会前日に台風9号が接近していた）昨日の大雨では、タイムライン上では避難準備情報、避難勧告までは行かない状況だったが、市長からは「空振りでもよい」という判断があり、警戒本部を設置して準備情報を出した。避難所12ヶ所を設けて対応した。
- ・避難者が43名あったことから、住民の減災意識は、確実に高まっていると感じている。
- ・今後も市民に注意喚起、意識向上を図り、水害からの被害を最小限に食い止める努力をしていきたい

### ○委員

- ・8月17日の台風（7号）の影響で、土砂災害の警戒雨量まで達して、避難準備情報を出した。前回の大雨では气象台等からの情報を待ったためにギリギリの発出となったことを反省している。今回は、台風直撃することをふまえて全地区に避難準備情報を出した。
- ・深夜に避難情報を出すことが予想されたため、早期に体制を整え、空振りを恐れず、早めの避難準備情報を出した。
- ・避難情報を発出すると、避難所の開設や準備が必要だが、まず住民の安全・安心を第一に考え、今後も早めの対応を行っていきたい。

### ○委員

- ・より分かりやすい情報提供として、これまでは文章のみだったが、表を着色したもので分かりやすくした。今後は、事象毎に、使い勝手が良かった点と悪かった点などについてお話を伺っていきたい。
- ・台風については雨と風の両方に対応しなくてはならない。風が強まってからの避難は危険である。個々の台風で状況が微妙に違っているので、その都度情報収集し、タイムラインに縛られることなく、臨機応変な対応が必要である。

### ○委員

- ・（協議会前日に台風9号が接近していた）昨日は県内市町村の情報収集にあたった。今回も、早め早めの避難準備情報を出すという土壌ができ上がってきているのは非常に良い傾向である。
- ・空振りによる住民の不信に対しては、自治体にもフォローしてもらいながら進めていかなければならない。
- ・地域防災力の向上のため、地域防災リーダーの育成を進めている。避難訓練や実際の避難の際にリーダーとなる人材の養成を進める。
- ・大規模災害時の広域防災拠点を宮城野原に整備している。また、県内の7圏域に、圏域防災拠点を整備している。大規模災害があった際に、自衛隊や他県の消防隊等の拠点となり、物資援助にも使用できるハード整備も進めている。町の防災拠点と連携しながら、災害時には速やかな対応ができるよう整備する。

### ○委員

- ・（参考資料-3の説明）関東・東北豪雨を踏まえて、アクションプランを策定して事業を推進している。
- ・水害常襲河川である二迫川、芋塚川の昨年災害の早期復旧を目指している。迫川については、若柳地区の河道掘削、荒川の河道ポンプ整備を推進する。
- ・水位周知河川の見直しを行い、関係市町村と調整のうえ指定河川の水位周知河川化を目指している。昨年度と比べて5河川を追加する。テレメーターやCCTVカメラについても順次設置を進めて行く。
- ・迫川水系の想定最大規模の降雨による浸水想定区域図については、今年度にシミュレーション作業を行い、平成29年度早々には市町村民に情報提供したい。
- ・適切な河川維持管理による流下能力の確保のため、今年度中に全ての有堤防点検を完了させ、対策が必要な箇所は迅速に対応を行っている。重要区間においては、計画的な堆積土砂撤去、支障木伐採撤去を進める。
- ・今後も、流域の市町や国交省、関係機関と連携し、減災対策を図るためのハード、ソフト対策を一体的かつ計画的に進めたい。

## 3. その他

- ・今後、情報伝達訓練や共同点検等を順次実施したい。
- ・来年度の洪水期前には協議会を開催してフォローアップし、お互いの目標達成などを確認していきたい。

以上